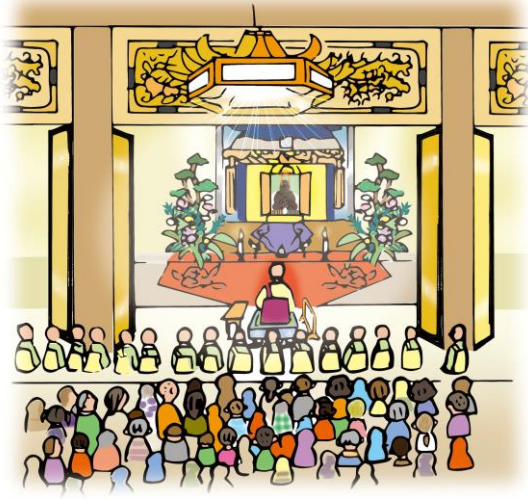


宿縁

十一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 〇四七―三七二一―〇二九二
FAX 〇四七―三七二一―〇二六二

枠組みを外して 見えてくるもの



私たちのまわりには人間の錯覚や錯視を利用したモノがたくさんあります。たとえば路上に描かれたトリックアートは通りかかる人を楽しませたりギョッとさせたりします。



上の図形はイタリアの心理学者カニツアの三角形と呼ばれる錯視図形の一つです。

この図形、白い三角形が見えます。でも実際に描かれているのは黒い「バックマン」とギリシャ文字のラムダのような折れ線が三本描かれているだけなのがわかると思えます。

この錯視図形では、白を背景として三つの黒いバックマンがあり、バックマンの口を内側に向けています。この図形では、三つの黒い円盤と三角形の輪郭の上に、白い三角形があるように見えるでしょう。白い三角形は、白い背景よりもさらに明るく見え、三角形の輪郭線さえも知覚されるのですが、実際には輪郭線に沿った輝度の変化は存在しません。

本当は存在しないこの正三角形の輪郭は「主観的輪郭」と呼ばれています。ないはずの三角形を想像してしまう、つまり主観的輪郭とは私たちの脳が作り出した輪郭なのです。

さてブツダ積尊は人間の認識は主観に囚われがちであり、もっと客観的に見よと教えます。すなわち「とらわれない」「こだわらない」心を保つことによって柔軟な生き方が生まれ、常に新たな「私」が組み立てられる楽しみがあります。

とかく三角形とか円形だとかいう際に先入観として枠組みを想像しがちですが、実はその枠組みのない三角形や円形の本当の姿が見えてくることに驚かされます。

「ドコトテ御手ノ真中ナル」とは柳宗悦(民芸運動を起こした思想家であり宗教哲学者)の言葉ですが、円周の無い円はどの点も中心となるということです。著書の「南無阿弥陀仏」に、

『御手』というのは、仏の御手でも、神に御手でも、菩薩の御手でもよい。私が何処に居るも、何処に向くも、居るその個所が、御手の真中であるというのである。「私が」といったが、それは誰であつてもよいのである。つまり人間の真の存在は、左右の中間とか、上下の中程とかいう意味の「中」ではない。そんな中なら、無上とはいえぬ。ある聖者が「神は至るところに中心を持つが、何処にも周辺を持たぬ」といったが、そういう周囲を許さぬ中心が、それ自身の中心なのである。ここに吾々の心の故郷がある。ただ、その事実を知らぬために、二元の巷に、あたり彷徨(さまよう)しているに過ぎぬ。「中」は、二元と次元を異にするものである。かかる中を去って解脱(さと)りはない。だが解脱とは、新しい獲得ではなくして、本来あるがままの境に帰ることである。その故郷は「中」そのものなのである。仏教に中道が説かれる所以である。』と書いていますが注目し値にする言葉です。

ちよつと小難しくなりますが当たり前と思つていた私中心の物の見方(すべてを対立させて考える)を逆転することによって、新たな世界が見つけ出されます。さて浄土真宗のご法義を聞くということは阿弥陀仏の本願のお心を聞かせていただくということ。私たち一人ひとりにか

られた仏さまの願いを聞くとは、自分の考え見方を空にして仏さまの言葉を素直に聞き、そのお心にそつた生き方をするということです。真実に目覚められた方を「ブツダ」(仏)といいますが、その教えを説かれた經典の「大無量寿経」は、阿弥陀仏の四十八の願いをお説きになった經典で、その要は十八願にあるために、それを本願と呼ばれます。その願い(誓い)というのは、『もし私(法蔵菩薩)が仏になり得たとしても、煩惱にまみれて悪に染まり誤つたものの方しかできないあらゆる人びとが、仏の真心心を受け取り、その間違いなきはたらきを疑いなく信じてお念仏を申させて、もし浄土に生まれることができないようであれば、仏にならないと誓われた約束です。』それは、私たちすべての往生と阿弥陀仏ご自身の成仏を一体にして誓われた願いです。

經典には「設我得仏、十方衆生、至心信樂、欲生我國、乃至十念、若不生者、不取正覺、唯除五逆、誹謗正法」とあります。最後の二句は二つの罪(五逆と真理に背いて恥じるようなことがない罪)の重いことを示して、すべての人びとがみな漏れず往生できることを知らせようとして書かれています。親鸞聖人は「阿弥陀如来の誓願は人間をこの上ない仏にならせようとお誓いなさつていられるのです。無上の仏と申すのは、形、お姿がありません。…お姿もありません。人間に知らせようとして、はじめて阿弥陀仏と申し上げるのだ、と聞きならつています。」(自然法爾章)と申されています。仏法は人間の自力のはからいをまじえないことこの意を「三角形の図形」から知ります。

【寺灯雑記】

○コロナ禍で文化講演会が中止となる

10/16

平成元年から毎年秋に開催されていた山崎製パン企業年金会館を会場とした文化講演会は、昨年に続き今年もコロナ感染防止のため中止といたしました。

各界の著名な方を講師に招き幅広いお話を聞けると口コミで広がっている講演会だけに誠に残念です。

しかし講師に予定されている中島岳志先生(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)は明年十月二十二日(土)の予定日にもご出講くださいますので、コロナも収束した中での開催を楽しみにしていただきたいと思えます。

十月十六日は文化講演会中止に伴い、お寺での常例法座となりました。講師は前住職が勤め、信心について、親鸞聖人の著書「尊号真像銘文」に著された「十八願(本願のころ)」を通して、浄土真宗の真実信心を話されました。

○門信徒会役員会開催

10/16

今年度、三回目となる門信徒会役員会が開かれ、今後の諸法要・行事や合同墓についてそれぞれ協議、報告がなされました。

報恩講については、コロナウイルス感染者が減少傾向とはいえ、まだまだ油断ならないことから、昨年に引き続きお斎の接待は自粛することに決まりました。

また、今年いっぱい役員任期が満了することから、今後の役員を選定や任期について

活発な意見交換が行われました。

○永代経懇志進納

藤野原龍樹様

○お仏飯米進納

橋口秋子様

○合同墓建立の進捗状況

現在、第二墓地に建設工事が行われている合同簿について、進捗状況をお知らせいたします。

これまで、この宿縁において「合葬墓」、「合同墓」などと、名称が統一されておりませんでした。その役割や性質、納骨形体を鑑みて、「中原寺合同墓 法縁廟(ほうえんびょう)」とすることに致しました。

十一月初旬の完成が見込まれ、完成を記念しての建碑法要を十一月二十日の午前中にお勤めし、納骨の受付は十二月より開始する予定です。

また、法縁廟についてのパンフレットを現在作成中で、完成の折には有縁のかたにお届けいたします。



10月末の建設地の様子

【法座・行事の案内】

○お仏具磨き・清掃奉仕

十一月六日(土) 午前10時

○婦人会法座

十一月六日(土) 午後一時三十分

『正信偈』を学ぶ(源信講)

講師：前住職

○壮年会法座

十一月六日(土) 午後二時三十分

『仏説阿弥陀経』解説

講師：住職

◇宗祖親鸞聖人報恩講法要

*お逮夜法要

十一月二十日(土) 午後二時より

勤行：初夜礼讃、御伝鈔拝読

法話：住職、前住職

*御満座法要

十一月二十一日(日) 午後一時より

勤行：正信念仏偈

法話：山崎龍明師(小平市 法善寺)

報恩講は、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶとともに、いま私がお念仏のみ教えに出遇えたことをあらためて喜び、感謝をさせていただく大切な法要です。ご一緒にお勤めさせていただきましょ。 ※お斎の接待はございません。 ご了承ください。

○教行信証を学ぶ(信巻)

十一月二十七日(土) 午後二時

講師：前住職

【お寺ではこんなこともできます】

一般的には、「お寺は法事やお葬儀でお世話になるところ」と思われがちですが、お寺は人生の悲しみの場面でのみ必要とされる場所ではありません。

私のいのちの喜びのときも、悲しみのときもご一緒してくださる阿弥陀さまの前で、一緒に人生の節目をお祝いしませんか。

○初参式(初参り)

〇七五三

新しいいのちをめぐまれた喜びやお子様誕生や成長をご縁として、阿弥陀さまのお慈悲に包まれていることに感謝してお参りします。

○結婚式

結婚式は、尊いご縁によって結ばれたよろこびをご縁として、新郎も新婦も、ともに慈悲のなかにあることを感謝しながら、念仏に薫る生活をおくるということ、阿弥陀如来の前で奉告する儀式です。

その他、成人式、金婚式や米寿などのお祝いの法要も随時、お受けいたしております。お気軽にご相談ください。



【十一月の掲示板のことば】

仏の教えは 自分の枠をばらし 新たな私を 組み立てること